

ハクサイ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培									○	◎	—	□
	—	—	□						○	◎	—	□

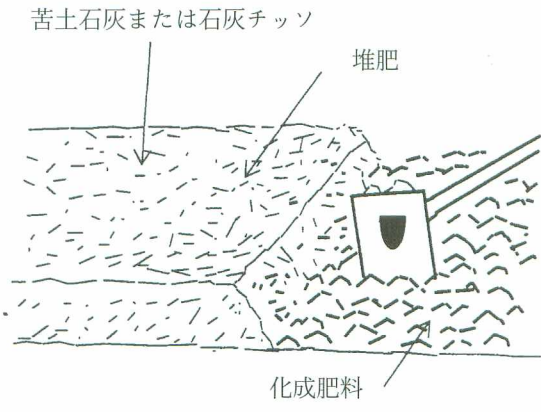
比較的冷涼な気候を好み、結球期の適温は15~16℃くらいで、暑さに弱いことから、生育するにしたがって温度が下がっていく晩夏まきが育てやすいです。

ハクサイには、結球するものと半結球のものがあります。

結球するには外葉に陽がよく当たる必要がありますので、陽当たりの良い場所で作りましょう。

畑の準備

たねまきの2週間前ぐらいに1㎡当たり苦土石灰100g、堆肥2~3kgを全面に施して、20~30cmの深さに耕します。このときに、石灰チッソがあれば、苦土石灰の代わりに50kgぐらい施しますと、土壌酸度の矯正とともに雑草や病害虫の防除に効果があります。また、チッソ肥料としての効果もあります。



元肥

たねまきの1週間前に1㎡当たり化成肥料2握り程度を全面に施し、深く耕します。根は深く土中に広がります。

うねづくり

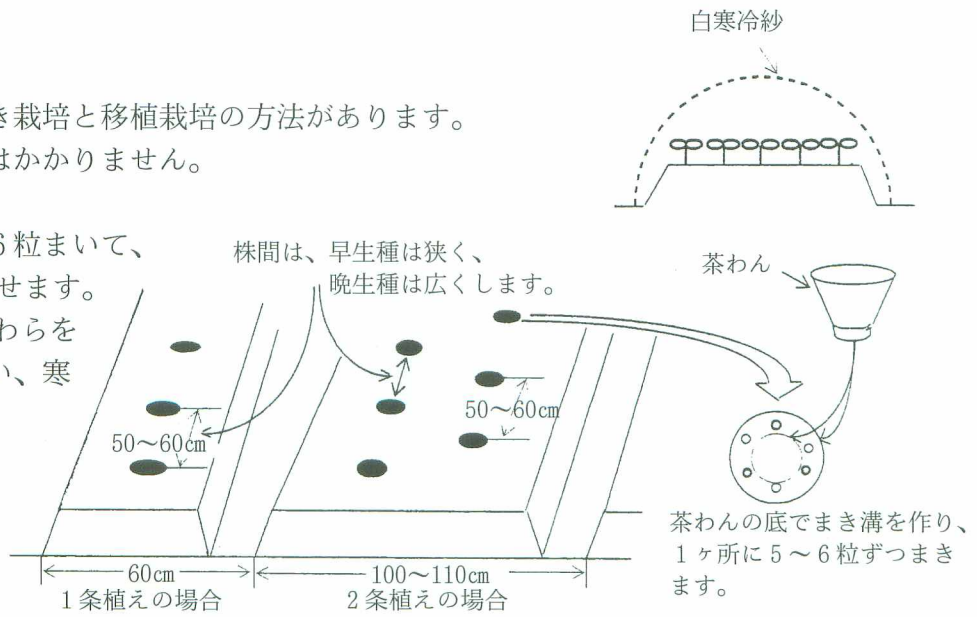
地下水位の高い所や排水不良の所では、うねを高く作ります。

たねまき

栽培の方法には、直まき栽培と移植栽培の方法があります。直まき栽培の方が手間はかかりません。

《直まき栽培》

1ヶ所にたねを5~6粒まいて、1cmの厚さに土をかぶせます。乾燥防止のために切りわらを薄く広げて、灌水を行い、寒冷紗で覆います。



うねのつくり方とたねまき（直まき栽培）

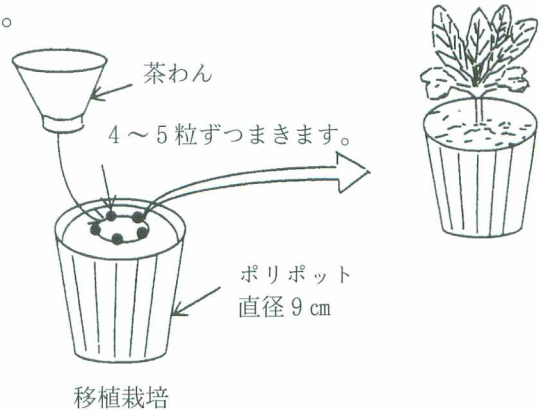
間引き

1回目は本葉2～3枚のときに、生育の遅い苗や早すぎるもの、虫に食われたものを間引きます。
2回目は、本葉5～6枚のときに行い、1本にします。

《移植栽培》

この栽培は、ハクサイを植えつける場所に前作がある場合や発芽直後から生育初期に害虫や乾燥の被害を受けにくいことから行われます。

ポリポットにたねを4～5粒ずつまいて、土をかぶせます。



植えつけ

移植栽培の場合は、本葉4～5枚の頃に根を切らないようにていねいに植えつけます。

追肥と中耕

直まき栽培では、間引きのつど追肥を行い、軽く中耕して、株元に土を寄せます。

肥料切れにならないよう結球初期までに3～4回追肥を行います。3回目以降の追肥では、施すときに根を切らないように、うね間にバラまきだけにします。



- ①：第1回追肥
- ②：第2回追肥
- ③：第3回追肥

防寒

晩生種の場合は、霜の被害を受けないように結球がほとんど完了した頃に、外葉で包んでハクサイの肩の部分の部分をひもなどで結んでおきます。

収穫・貯蔵

ハクサイの頭の部分を押さえてみて、硬く締まっているものから順次収穫します。

よく結球したハクサイを収穫し、3～4日陰干しして外葉の水分を抜き、株元の切口を乾かしてから新聞紙2枚重ねで包み、屋内の冷所に株の切口を下にして並べて貯蔵しますと、3ヶ月ぐらいは生のハクサイを食べることができます。

コメント

ビタミンCが多く含まれた野菜です。

清け物としてばかりでなく、鍋物、煮物、炒め物に広く利用できます。